

只見町 沼ノ平地域総合学術調査報告会

町の事業として2017年度から2020年度にかけて実施した沼ノ平の学術調査の報告会が、7月2日に只見振興センターで開催されました。

報告会で発表された内容の概要を紹介します。

報告①

調査の目的と沼ノ平の概要

報告者：目黒康弘（只見町役場）

只見ユネスコエコパーク域内の北西部に存在する沼ノ平は、浅草岳の北東部のなだらかな中間斜面の地すべり地帯に位置し、多くの湖沼群が存在するとともに、周囲には成熟したブナ林が成立している。このような自然度の高い環境にあることや地すべり地帯という不安定で特殊な立地環境にあることから、そうした環境に依存した特異な生物種群が生息、生育しているとの報告があり、自然環境・生物多様性を保護・保全する上で重要な地域と考えられていた。そこで、沼ノ平の自然環境、生物相および生態系の実態について明らかにするとともに、沼ノ平の適切な保護・保全・利用の在り方について検討するため、2017年から4カ年計画で沼ノ平の総合的な学術調査に着手した。



▲沼ノ平地域全景

報告②

時系列空中写真を用いた沼ノ平における地表面変化の把握

報告者：村上拓彦（新潟大学 農学部）



◀小三本沢沿いから沼ノ平のドローン撮影に挑む

沼ノ平における地表面変化の有無について、空中写真を用いて1947年から2014年の67年間に発生した変化を解析した結果、多くの沼の形が変化し、移動している傾向が読み取れた。ブナの樹冠も、1976年から2014年の38年間において6.3～18.8mの移動があり、沼ノ平地域全体が東の方向に移動していることが確認された。

これらの結果から、沼ノ平の地表面は絶えず変化していることが確認できた。

報告③

沼ノ平地域の古環境—花粉分析に基づいて—

報告者：志知幸治（森林総合研究所 四国支所）

沼ノ平地域では地すべりによって複雑な地形上にブナを中心として多様な植生が成立している。こうした植生と過去の環境変化の変遷を明らかにするために、湿地から採取した堆積物の年代測定を行った結果、最下部の粘土の堆積年代は約1万9000年前と計算され、湿地形成の要因となった地すべりは少なくともそれ以前に起きたことが明らかになった。花粉分析の結果、沼ノ平地域では過去1万年間以上に渡ってブナが優占していたことが明らかになり、ブナの割合の増加とともに、湿地性のサワグルミなどからトチノキ、コナラ垂属へと植生が変化していたことが分かった。これにより沼ノ平地域では次第に斜面が安定化し、土壌が発達していったことが示唆され、人為の影響は一貫して小さかったことが推測された。



▲採土器による湿原採石物の採取

報告④

沼ノ平地域の植生とその多様性

報告者：崎尾均（Botanical Academy・新潟大学佐渡自然共生科学センター）

沼ノ平地域では地すべりにより形成された多様な地形に対応した特異的な植生の成立や遷移が起こっている可能性がある。本調査ではこの地域における植生を分類し、それらの成立と地形変動との関係の解明を目的とした。沼ノ平地域に92箇所の調査プロットを設置し、植生及び環境因子を調査・解析した結果、この地域の植生は8タイプ（ブナ・ミズナラ・サワグルミ・ヒメヤシャブシ・ヌマガヤ・ヤチダモ・ミヤマカワラハンノキ・ヤナギ類）に区分された。また、各植生を比較する事により、地形変動が多様性を増加させ、各植物種に対して好適な環境の形成に寄与していることが推測された。また今回の調査では沼ノ平という町のわずか0.4%の面積に種子植物の34.7%、シダ植物の51.1%が分布していることが分かり、今まで記載の無かった107種のコケ植物についても確認することができた。



▲作業道でのサンプリング



▲民宿で植物標本作製

報告⑤

沼ノ平地域の哺乳類相

報告者：石川貴大（只見町役場）

2018年から2020年までの調査で、ヤマネ、アカネズミ、ニホンノウサギ、ヒミズ、ツキノワグマ、ホンドタヌキ、ホンドテン、ニホンアナグマ、ハクビシン、ニホンジカ、ニホンカモシカの5目10科11種の哺乳類の生息が確認された。既存文献によるコウモリ類の生息記録を含めれば、沼ノ平地域には6目11科14種の哺乳類が生息していることが考えられ、今後さらに、モグラ類、ネズミ類及びコウモリ類の調査によってさらに確認できる種は増える可能性がある。

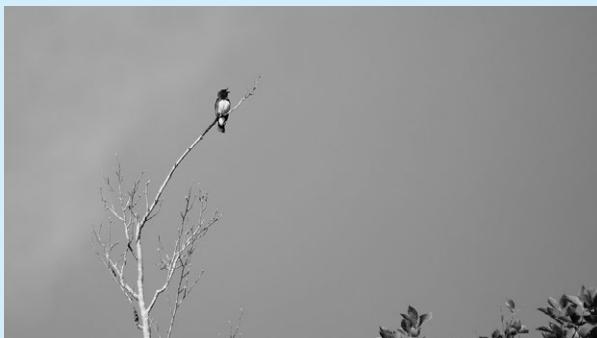
赤外線センサーカメラで撮影されたツキノワグマ▶



報告⑥

沼ノ平地域の鳥類相

報告者：遠藤菜緒子（只見町教育委員会）



▲枝上でさえずるオオルリ

2018年から2020年までの調査で、27科45種が確認された。沼ノ平に点在する湖沼ではカモ目やカワウ、溪流沿いではミソサザイ、カワガラス、キセキレイといった水辺の鳥が見られた。調査の結果、只見町を代表するブナ広葉樹林帯には地形や植生に関して多様な環境が含まれていることが分かり、それによって移動能力の高い鳥類であっても、生息種の多様性を生み出していることが明らかとなった。しかし、今回の調査ではワシタカ類を対象とした行動圏調査や夜行性鳥類調査が不十分だったこと、繁殖期の調査に限定したことから、本調査地の鳥類相を十分に明らかにするためにはさらなる調査が必要と考えられる。

報告⑦

沼ノ平地域の爬虫類・両生類相

報告者：吉川夏彦（国立科学博物館）

2019年から2021年にかけて爬虫類・両生類の調査で、両生類12種、爬虫類4種を確認した。両生類では、沼ノ平沼群でモリアオガエルやクロサンショウウオなど止水域に生息する種が多く確認され、同地域が重要な繁殖環境となっていることが示唆された。また、人里周辺の水田や池沼にも広く分布するツチガエルが沼ノ平地域で広く確認されたことも特徴的であった。一方でハコネサンショウウオなどは小三本沢本流およびその右岸側からの溪流といった流水域が重要な生息環境となっていることが示唆された。このように、山地内に止水と流水の両方の環境が隣接して存在することが、同地域が町内でも両生類の高い種多様性をもつ地域であることの要因の一つと考えられる。一方、爬虫類の確認種数は4種にとどまった。トカゲ類2種に関しては沼ノ平地域での分布状況がおおよそ把握できたと考えられるものの、ヘビ類の生息確認状況に課題を残した。

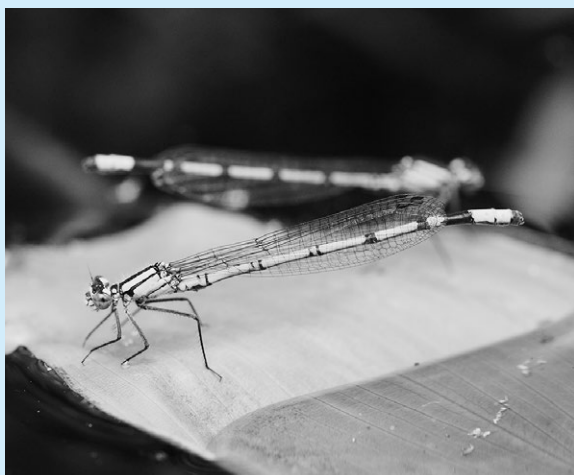


▲タダミハコネサンショウウオのメス

報告⑧

沼ノ平地域の昆虫相

報告者：緒勝祐太郎（日本昆虫学会）



▲スサキ沼に生息するルリイトンボ（オス）

2017年から2020年にかけて昆虫捕獲用トラップによる現地調査を実施した結果、沼ノ平地域からは7目56科491種が記録された。過去の文献記録を含めると、沼ノ平地域からは7目56科494種の昆虫類が確認された。また、沼ノ平地域の昆虫目録を作成し、環境省および福島県のレッドリストの掲載種やこの地域に特徴的な種（ルリイトンボ、ゲンゴロウ、エゾゲンゴロウモドキ、キイロマツモムシ、キタヒメアメンボなど）を示した。さらに池沼で確認された水生昆虫類について、過去の調査結果と比較し、その生息状況の変化を考察した。

調査の結果、自然度の高いブナ林を代表する昆虫が生息していることが分かり、本州あるいは福島県初記録の昆虫も確認された。また水生昆虫にとっても地すべり由来の池沼群は重要な環境であり、特にスサキ沼の多様性が高いことが確認された。

報告⑨

沼ノ平地域の成熟ブナ林における地表性オサムシ類の分布とその規定要因

報告者：大脇淳（桜美林大学）

沼ノ平地域の人の影響がほとんどないブナ天然林において、倒木や地すべりのような自然攪乱等が地表性ゴミムシ群集（オサムシ科）の多様性に及ぼす影響を評価するための調査を行った。沼ノ平地域に合計14プロットを設置し、2017年から2019年まで季節を変えながらトラップにより捕獲された種と個体数を記録した。調査の結果、27種360個体のゴミムシ類が採集され、土壌の攪乱を伴う地すべりギャップや湧水由来の細流が生み出すブナ林内の異質性はゴミムシの多様性を高めていたことが分かった。天然林でゴミムシの多様性を維持するためには、様々な自然攪乱や林内の多様な環境を維持する必要がある。



▲地表性ゴミムシ

沼ノ平地域の沼辺、湿地で得られた甲虫類

報告者：榎原寛（日本甲虫学会）、緒勝祐太郎（日本昆虫学会）

2018年から2020年にかけて実施された昆虫相調査で捕獲された昆虫のうち、主に沼辺や湿地で得られた甲虫の一部の種について調べた。それらは①湿地の周辺を好む植物に依存する甲虫（ヤナギチビタマムシ、アオカメノコハムシ）、②湿地特有の植物に依存する甲虫（ネクイハムシ類、ヒウラヒラタネクイハムシ、オオネクイハムシ、キヌツヤミズクサハムシ、シラハタネクイハムシ）、③開けた明るい環境を好む植物に依存している甲虫（フジハムシ、ヘリグロリングガミキリ）、④湿地を好む昆虫類（オオトックリゴミムシ）、⑤明るい池沼の周りをエサ資源の探索場所として利用している昆虫類（小型スズメバチ類）であった。これらの種について食草と生息地の環境に関して考察を行った。また土石流跡地については天然林内にできた新しいギャップと見ることができ、新たに生えてきたヤナギ類や開けた環境を移動場所として利用している甲虫類が見られた。



▲ヤナギチビタマムシ

総括

沼ノ平地域総合学術調査報告の総括 —自然攪乱と生物多様性、残された課題—

崎尾均（Botanical Academy・新潟大学佐渡自然共生科学センター）



▲調査風景（雨で増水した小さい三本沢の徒渉）



▲地すべりによる地表変動で傾いたブナ

今回の沼ノ平地域総合学術調査の目的は、沼ノ平における頻度の高い地形変動が植生遷移や生物多様性にどのような影響を与えているかを明らかにし、生態系の保護・保全とその持続可能な利用を図り、適切な管理方法を検討することであり、2017～2020年度までの4年間、49名を超える調査人員で様々な調査を行った。それによって沼ノ平の形成時期、地形変動や地表攪乱、生物相とその多様性、沼ノ平地域の保全の重要性について明らかになったとともに、以下の課題が残された。

- 今後の沼ノ平地域の取り扱い方針
- 利活用に関する取り扱い方針
- 動植物などの保護・保全
- 調査研究に関する取り扱い方針
- 只見ユネスコエコパークエリアの検討

本調査により沼ノ平の多様な立地環境と高い種多様性が維持されていることが明らかになった。このことは「自然首都・只見」の新たな価値・魅力となるものであり、人と自然との共生を目指す只見ユネスコエコパークの適切な管理・運営のための根拠となるものである。

只見町の皆さんをはじめ、調査に協力・参加していただいた多くの方々に心より感謝申し上げます。

今回の調査結果については、『ブナセンター紀要 No.10「沼ノ平地域総合学術調査報告号』』としてまとめられています。

- ブナセンター紀要 No.10「沼ノ平地域総合学術調査報告号」
- 価格：3,000円／192p
- 販売場所：ただみ・ブナと川ミュージアム及びふるさと館田子倉

郵送でもご購入できます。只見町ブナセンターホームページをご覧ください。お電話でお問い合わせください。

問合せ先：只見町ブナセンター 電話：0241-72-8355
ブナセンターHP：<http://www.tadami-buna.jp/>





▲忌憚のないご意見ををお願いします

令和4年度の集落座談会が6月20日から始まりました。既に開催済みの集落につきましては、ご協力いただきありがとうございます。

今回の座談会は、昨年と同様にテーマや議題を設けずに、町政についての気になることや集落で抱える問題、世代ごとに抱える問題についてなど幅広く意見交換を行える場としています。

集落座談会は、8月末までに各集落（辞退した集落を除く）で開催します。いただいたご意見等につきましては、今後の町政執行の参考とさせていただきます。

町民の意見を町政に生かすために
「集落座談会」開催



▲ブレンドの異なるお茶を飲み比べました

「第1回ブナ林ブレンドワークショップ」（全3回予定）が、6月28日に開催されました。このワークショップは、町の木のブナや、共生するアブラチャンなどの機能性成分に着目し、それらの枝葉を活用した商品開発を目的としています。

参加者は、対象となる樹種の見分け方を現地で学んだ後、新潟大学山口智子准教授が数種類の葉を乾燥して作ったブナ林ブレンドのお茶を飲み比べました。

参加者は単一種やブレンドによって異なるお茶の味や香りを確認しました。

自然資源を活用した地域振興の取組み
「ブナ林ブレンドワークショップ」開催



▲子どもに関わる人材が少ない環境で、何を考える必要があるかをお話されました

菊池信太郎氏による講演会「只見町が子育て日本一になるまちづくり」が、7月15日に只見振興センターで開催されました。

菊池氏は、ご自身の取組みなどを交えながら、「福島の子育てのために、子どもたちを健やかに育む環境が大切。また子どもの成長には遊びが重要。子どもが元気な町、子どもに優しい町は高齢者にも優しい町である」と話し、只見町が目指すべき生育環境などについて講演しました。

只見町子育て講演会
「只見町が子育て日本一になるまちづくり」開催

さとう らん
佐藤 蘭さん
(叶津)

きくち ゆりあ
菊地 ユリアさん
(福井)

のなか ゆり
野中 悠理さん
(福井)

すずき いと
鈴木 いとさん
(只見)

虫歯の
ない子
(7月26日)
3歳児検診

